

Subject: [qsob 218] 原子力発電所の当番制度と焼酎談義

Date: Sat, 13 Dec 2003 10:57:42 +0900

X-Mailer: Lotus Notes Release 5.0.4a July 24, 2000

お疲れさまです。六代目の福田です。

今日は、原子力発電所の当番制度を紹介したいと思います。

面白くない話題かもしれません。興味のある方はご一読ください。

まず、原子力発電所における自分の仕事の一部を紹介します。
大きく分けて以下の2つに分類されます。

- 原子燃料関係業務：
 - ・ 原子力発電所の燃料受入れ、搬出や定期検査中の燃料の入替・検査、
運転中の燃料の燃焼状態（火がついて燃えている訳ではありません）
の管理、など
- 技術的な事項の総括業務：
 - ・ 対外的な報告、申請のとりまとめ、窓口業務
（例えば定期検査の申請・スケジュール管理、お役人さん対応など）
 - ・ 何かあったとき等における通報連絡、など

このうち、何かあったとき等の所外への情報発信源は、基本的に全て私から
になります。勿論、外に連絡するときは、国は自分、自治体やプレスは他の人
というように、分担はしています。

それじゃあ私は常に拘束されているやないか、ということになりますが、それを
緩和する手段として、休日・時間外には当番者を決めて、その人から情報を
発信してもらうことにしています。

当番者は発電所にずっと居る必要はないのですが、そうでない場合も基本的
には自宅に待機しておき国への定時連絡を行うのと、何かあった場合には発電所
を運転している人から情報をもらい、外に連絡する必要があると判断した場合
には関係先に連絡することになります。

これを当番制度（正式には当社では輪番制度と呼んでいます）と言います。
言わば私の代わりを皆で分担してくれている訳です。

ただこの当番者も250人居る所員全員で行う訳にはいかず、組合員でない
（＝無報酬で働ける）1割弱の人間（技術系・事務系）をグループ分けし、
何人かずつで交代に回しています。

これは年末・年始やゴールデンウィークも同じです。例えば年末年始の場合、
技術系は当番者を3グループに分けて、前半・中盤・後半という具合に分担を
決めています。中盤に当たった年は悲惨です。当番者の殆どが単身赴任なので、

誰もいない寮で一人寂しく正月を迎えることになります。

人をお願いしているとは言え、やはり発電所のことは気になりますので自ずと川内に居ることが多くなります。川内に居るのであれば何も予定がないときはなるだけ昼間は発電所に、ということになります。また、台風の場合は発電所に泊まる、定期検査の場合は1ヶ月くらい連続で土日も毎日会社に出るという生活になります。

川内に来て4年目、今の仕事で3年目になりますが、いまだ有給休暇は1日も取っていません。社内には夏場やその他連続で数日休める制度もありますが、それは無縁です。

そういう訳で、ある意味では会社拘束されながらも一人自由な時間も多く、他の人と比べれば焼酎談義などのメールを書く時間もあるわけです。

今週末は当番で川内に居ますので、明日また焼酎談義で杜氏の話でも書きたいと思います。

最後に誤解がないように付け加えておきますが、発電所全ての人がこういう生活をしている訳ではないのと、トラブルだ何だと色々な報道がされますが、発電所は一般の人が思われるより非常に安全です。

原子力発電所の場合、気分が悪くなって発電所に救急車を呼んだだけで速やかに連絡しないと怒られます。情報連絡の類は殆どがそんなものだと考えて頂いて良いかと思います。

少々長くなりました。

福田 剛